

全国 YMCA ユースチャレンジプログラム 2020 報告書 「リフレッシュデイキャンプ」

YMCA せとうちリーダー会（YMCA せとうち）

1. プロジェクト概要と実施内容

<経緯>

2018年7月に発生した西日本豪雨災害により、岡山県で最も被害の大きかった地域が真備町です。避難所での生活を余儀なくされ、遊び場のない子どもたちに思いっきり体を動かし、こころのリフレッシュをしてほしいという思いから、YMCA せとうちでは、これまで3度にわたってリフレッシュキャンプ（西日本豪雨支援キャンプ）を実施してきました。これまで実施したリフレッシュキャンプのアンケート結果から、子どもたちだけでなく、保護者の方々からも「沢山我慢やストレスのある中で普段できない経験や遊びをさせて頂いて、とてもリフレッシュできたと思います。」や「真備を離れて転校しましたが、このキャンプで友達と再会し交流できたのが嬉しそうでした」との声をいただき、微力ながらもリフレッシュキャンプを通して被災した子どもたちやご家族の力になれたのではないかと思います。

今年度も9月に第4回目のリフレッシュキャンプを計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施は難しい状況となってしまいました。しかし、災害から2年の月日が経った今でも、心の傷が癒えていない子どもたちが多くいるのが現状です。そこで、ユースチャレンジを通し、リフレッシュキャンプに代わるものとしてリフレッシュデイキャンプを考えました。真備の方々とのつながりを深め、これからも継続的に真備町の子どもたちを支援していきたい。コロナ禍であるからこそ、被災した子どもたちに向けて何かアクションを起こしたい。そのような思いで、本企画を応募させていただくことになりました。

<目的>

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、例年のように、宿泊でのキャンプを実施することは難しい状況でした。そのため、日帰りという形でキャンプを行い、リフレッシュキャンプ同様に、子どもたちに心身ともにリフレッシュできるような時間を過ごしてもらいたいと考えました。デイキャンプという短い時間の中での活動ですが、子どもたちや保護者の

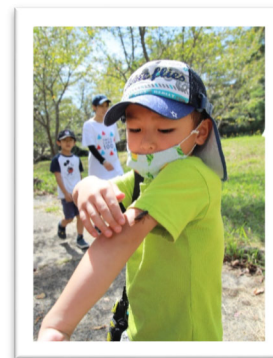
方々が「自然の中で活動ができて楽しかった！」「体をたくさん動かし、リフレッシュできた。」「また行きたいな！」と感じていただけるように、また、参加したリーダーも子どもたちと共にリフレッシュできたと感じることができるように、そのようなデイキャンプを目指して本企画を実施していきました。

<当日までのスケジュール>

日時	内容
8月13日	プログラム企画（企画リーダー）
8月21日	出欠アンケート（リーダー会にむけて）
8月27日	デイキャンプ参加リーダー・プログラム内容確定
9月9日	第1回ミーティング（参加リーダー・スタッフ）
9月18日	作業・直前ミーティング（参加リーダー・スタッフ）
9月22日	リフレッシュデイキャンプ当日

2. このプロジェクトを通じて考えたこと

今回の企画の全ての始まりは、2018年に起こった西日本豪雨です。ニュースでは、連日、豪雨災害の報道がされており、車や建物が浸水している様子や屋根の上で助けを待っている人の様子、避難所での生活の様子や地域の人が住宅の中の泥を撤去している様子など、豪雨によってもたらされた様々な被害をテレビ越しにはではありませんが、目の当たりにしました。災害が少ないと言われていた岡山県で、このように大きな被害が起こると思っていなかった分、とても衝撃的な出来事でした。しかし、被災された方がどのような苦しみを抱えているのか、何に困っているのか、漠然としか考えられず、どこか被害の大きさを実感できない部分もありました。そんな中、災害発生からしばらくして、真備に住む小学生や地域の方とお話をする機会がありました。直接お話を伺う中で、漠然としていた部分が現実的になり、とても心が動かされました。小学生の子から、「水道が止まったから毎日水を汲みにいくのが大変だった」「今でも台風が来ると、浸水するんじゃないかって思って怖くなる」と聞いた時、復興や復旧は進み長い年月が経っても、被災の体験は一生残るものなのだと感じました。同時に、私にもなにか支援がしたいと強く思いました。そして、キャンプ



を通して、子どもたちの心の傷を癒したい、子どもたちに笑顔になってもらいたいそのような思いを胸に、これまで実施してきたリフレッシュキャンプにも参加させて頂くようになりました。

2年の月日が経ちましたが、子どもたちのなかにある心の傷は残ったままです。さらに、新型コロナウイルスの感染拡大によって、全国が、世界中が大きな影響を受けています。このような状況にあるからこそ、被災した子どもたちへ支援を行うことに意味があるのではないかと思いました。コロナ禍は、日常の中にある弱さが増幅して現れているとも言われています。第4回リフレッシュキャンプの実現はできなくなりましたが、子どもたちが心身ともにリフレッシュする機会として、また、今まで行ってきたリフレッシュキャンプやそのほかの活動で築いてきた真備の子どもたち、地域の方々とのつながりをこれからも大切にしていくためにも、このリフレッシュデイキャンプを行うことが、せとうちのリーダー会として、子どもたちへの力になれるよう願いながらこの企画を実施してきました。キャンプ当日は、子どもたちの輝く笑顔をたくさん見ることができ、少しでもリフレッシュの手助けをできたように思います。

また、今回のキャンプを通して、支援を継続的にやっていくことの大切さを改めて感じました。災害や事件で起こった出来事は、どうしても時間と共に風化してしまいます。真備町も積み上げられたがれきが撤去されたり、多くのお店や事業所が再開されたりと、外からみると復興・復旧が大幅に進んでいるように見えます。しかし、目には見えない苦しさや心の傷は、被災した人々の中にあると感じています。「台風が近づくのが怖い。」「また水害が起



ったら。」など様々な不安だけではなく、「やっとお店を再開したが、新型コロナウイルスの影響で経営が苦しい。」など新たな悩みを抱えている人もいるのではないのでしょうか。私たちは

その苦しみ、不安を直接感じることはできません。ですが、支援を通してそのような思いに寄り添い、未来に向けて様々な可能性を考えていくことができると思います。リフレッシュデイキャンプに参加して下さった保護者の方から、「今でも、このように私たち、真備のことを憶えて、支えてくださって、とても嬉しいです。」とお話を伺い、私たちもとても嬉しかったです。今回は、デイキャンプという短い時間の中での活動だったため、宿泊のリフレッシュキャンプと比べ、子どもたちの満足度は低くなってしまうのではないかと心配もありましたが、このようなお言葉を

頂き、実施したことそのものに意味があったのだと気づくことができました。支援の内容も大切にしなければなりません、内容や形は変わっても、「心のつながり」こそが一番の支援として届いていくのだと思います。これからも、活動を通して生まれた「心のつながり」を大切に、被災した子どもたちを支えられるような存在でありたいです。そのためにも、リーダーひとりひとりが西日本豪雨での被災と向き合うだけでなく、子どもたちや保護者の方にとって、YMCA のキャンプが「自然の中で活動ができて楽しかった。」「体をたくさん動かし、リフレッシュできた!」「また行きたいな!」と感じることの出来るキャンプになるように努力し続けたいと思います。

3. 今後、ユースチャレンジを希望する人へのアドバイス

今回のリフレッシュデイキャンプは多くの方のご協力があったからこそ、実施することができました。企画者として至らない点も多く、ご迷惑をおかけしましたが、ユースリーダーとして、自分たちで案を考え、準備を進めていく体験は、達成感もあり、とてもよい経験になりました。特に、準備を進める中で、自分たちの思いを具体的に形にしていく難しさ、思うようにいかない大変さを感じました。デイキャンプという短い時間の中で、どのような活動を行うのか、何が必要なのか、細かく考えていけばいくほど、意見も分かれ、話し合いも長くなりました。準備までに時間のあまりない中で、本当に必要だと思う事に優先順位をつけて考えていくことの大切さを学んだような気がします。様々な苦労もありましたが、当日、自然の中で思いきり遊んでいる子どもたちの姿を見ると、本当に実施できてよかったと心から思いました。